

第71回 大阪府青少年読書感想文コンクール

小学校低学年の部 特選

豊中市立北緑丘小2年 五十里美逢（いかり・みあ）さん

◇見方をかえたらすきになる

わたしはくらいところがにが手です。一人でくらいところにいると、おばけや何かこわいものが出てきそうだからです。だからこの本を読んだ時、くらいところがこわくてたまらないというコスモはわたしにているなと思いました。

ものがたりの中でくらいところのよさを知っていく二人を見ているうちに、わたしもイルミネーションを見るのは好きなことを思い出しました。「こわがらないで。ずっとそばにいるから。コスモのてをつかんではなさないから。いっしょならきっとだいじょうぶ。」そう言ってベティがコスモをはげます場めんが一ぱんすきです。すごくやさしくて、あん心する言ばだと思うからです。ちがう場めんでベティがこまった時、コスモが同じ言ばではげましていて、ちゃんとコスモにもベティのやさしさがつたわっていたんだなと思ってうれしくなりました。二人でいっしょだからこそ出せるゆうきはすごいなと思いました。

今まで一人でいるとこわいと思っていたくらいところも、だれかといっしょならそんなにこわくないし、楽しいことをしていたら大じょうぶかもと思えるようになりました。

そうやって考えてみると、一どやってみたいんじょうやイメージだけで、出来ない、やりたくない、と思っていたことがたくさんあることにも気づきました。ベティとコスモがくらやみの中でのびるかけがりっぱだと気づけたように、にが手だと思っていることも、見方をかえたら楽しいとかんじたり、好きなところが見つかったりすると思います。だからこれからは、にが手だと思った時、すぐにきらいにならないで色々な見方を考えてみたり、友だちや家ぞくにそうだんしたりしようと思います。

そしてにが手なことがうまく出来なくてこまっている人がいたら、いっしょに楽しいと思えることを見つけられる人になりたいです。

（「ひかりのぼうけん」マリー・ヴォイト、訳・俵万智／岩崎書店）